

2025(令和7)年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成事業報告



2026(令和8)年5月1日
NPO法人北海道遺産協議会

2025(令和7)年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計33件1479万円)

No.	助成区分	遺産の名称	地域	団体名称	事業の名称	助成額
1	広域	天塩川、松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	流域市町村 北海道各地	天塩川シーニックバイウェイ	天塩川と歴史文化の伝承～天塩川×武四郎～	1,000,000
2	広域	利尻島の漁業遺産群と生活文化	利尻島	PMF修了生コンサート実行委員会	パシフィック・ミュージック・フェスティバル修了生コンサート in利尻島	1,000,000
3	広域	函館西部地区の街並み	函館市	一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン	マインクラフト × 文化体験:デジタルでつなぐ歴史と未来	700,000
4	広域	しかべ間歇泉	鹿部町、他道南 の遺産選定地域	道南ブロック会議運営事務局	北海道遺産「道南ブロック会議」事業	639,200
5	縄文	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市 など	認定NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム	小学校教諭との協働による縄文遺産群を対象とした 教育旅行の実践と普及拡大	350,000
6	縄文	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群、 オホーツク沿岸の古代遺跡群	函館市、伊達市 など	北の縄文道民会議	「世界遺産登録5周年へ・縄文雪まつり2026」の開催	350,000
7	縄文	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市	一般財団法人 道南歴史文化振興財団	縄文エコミュゼの形成に向けた基盤づくり事業	350,000
8	縄文	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市 など	伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム	海からの視線で体験する世界文化遺産縄文遺跡の 映像製作	350,000
9	縄文	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市 など	縄文DOHNANプロジェクト	『茅空』発見50年記念！ 縄文魅力発信プロジェクト	300,000
10	一般	サケの文化	石狩市	一般社団法人石狩シェアハピシティ計画	北海道遺産「サケの文化」次世代伝承プロジェクト	500,000
11	一般	空知の炭鉱関連施設と生活文化、 小樽みなとと防波堤、小樽の鉄道 遺産、北海道の集治監、江別のれんが	空知地域、小樽 市、月形町、三 笠市、標茶町、 網走市、帯広市	炭鉄港推進協議会	炭鉄港マイクラ事業	453,934
12	一般	サケの文化、稚内港北防波堤ドーム、 利尻島の漁業遺産群と生活文化、上ノ国 の中世の館、北海道の集治監、しもかわの 循環型森林文化、森林鉄道蒸気機関車「雨宮 21号」、オホーツク沿岸の古代遺跡群	北海道各地	北海道中央バス株式会社	北海道遺産協議会登録の遺産を訪ねるツアー 《なかなか訪れることの少ない地域の 貴重な遺産に出会うツアー》	500,000
13	一般	空知の炭鉱関連施設と生活文化	美唄市	一般社団法人ステイびばい	ほっかいどう遺産「空知の炭鉱関連施設と生活文化」の 魅力発信・認知度向上事業	500,000

2025(令和7)年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計33件1479万円)

No.	助成区分	遺産の名称	地域	団体名称	事業の名称	助成額
14	一般	しもかわの循環型森林文化	下川町	下川町	復活！下川町産割箸を通じた北海道遺産「しもかわの循環型森林文化」普及啓発事業	500,000
15	一般	仙台藩白老元陣屋	白老町	仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会	仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進事業	500,000
16	一般	雨竜沼湿原	雨竜町	雨竜町・雨竜町観光協会	令和7年度ラムサール条約湿地登録20周年事業	500,000
17	一般	江差追分	江差町	一般社団法人江差歴史文化再生機構	江差追分担い手事業	500,000
18	一般	小樽の鉄道遺産	小樽市	NPO法人北海道鉄道文化保存会	鉄道記念物「しづか号」生誕140年、鉄道記念物「大勝号」生誕130年を祝う会	500,000
19	一般	五稜郭と箱館戦争の遺構	江差町	江差町	開陽丸記念館休館中の出張展示モデル製作	500,000
20	一般	下の句かるた	北海道各地	全日本下の句歌留多協会	北海道遺産「下の句かるた」次世代育成事業	500,000
21	一般	しかべ間歇泉	鹿部町	鹿部町	オリジナルグッズを活用したしかべ間歇泉普及啓発事業	500,000
22	一般	天塩川	中川町	中川町観光協会	①第11回天塩川de水切り北海道大会 ②天塩川春発信inなかがわ	194,225
23	一般	石狩川	砂川市	石狩川下覧櫓	石狩川下覧櫓川下り・水遊び	500,000
24	一般	螺湾ブキ	足寄町	足寄ふるさとラワンぶきまつり実行委員会	足寄ふるさとラワンぶきまつり2025	500,000
25	一般	北海道の集治監	標茶町	標茶町	北海道集治監釧路分監魅力向上事業	490,600
26	一般	増毛山道と濃昼山道	増毛町、石狩市	特定非営利事業法人 増毛山道の会	増毛山道の歴史や遺産の広報・ツアー・維持管理事業	430,000
27	一般	北海道米のルーツ「赤毛米」	北広島市	北広島市	史跡旧島松駅通所リニューアルオープンに係る北海道米のルーツ「赤毛米」の魅力発信事業	314,200
28	一般	野付半島と打瀬舟	別海町	野付半島自然環境保全協会	野付半島から見る国後島展望デッキ整備	300,000
29	一般	利尻島の漁業遺産群と生活文化	利尻島	利尻しまじゅうエコミュージアム	大学生による「利尻島の漁業遺産群と生活文化」体験交流事業	300,000
30	一般	登別温泉地獄谷	登別市	登別市	登別地獄谷遊歩道修繕	297,000
31	一般	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	雪合戦審判競技力向上講習・審判交流派遣事業	200,000
32	一般	大友亀太郎の事績と大友堀遺構、開拓使時代の洋風建築	札幌市	札幌村郷土記念館保存会	大友亀太郎・ウィリアム P. ブルックス・永山武四郎につながる物語 巡回写真展	120,000
33	一般	モール温泉	音更町	一般社団法人音更町十勝川温泉観光協会	北海道遺産「モール温泉」PRパンフレット作成	109,000

1. 天塩川と歴史文化の伝承～天塩川×武四郎～

広域先導モデル枠

- 実施主体：天塩川シーニックバイウェイ
- 実施団体URL：<https://www.scenicbyway.jp/route/route13teshiogawa.html>
(シーニックバイウェイ北海道HP)
- 助成額：1,000,000円

一事業内容一

- 三重県の松浦武四郎記念館・山本館長を招聘し、名寄市にて講演会を実施。アイヌ文化の魅力を伝えるレ・マウカによる演奏や踊りを交え、親しみやすい構成とした。参加者97名のうち4割が市外からの来場者であり、ライト層には関心のきっかけを、コア層には専門的な満足感を提供した。
- 天塩川沿線20箇所の史跡を対象に、デジタルスタンプラリーを展開。準備期間の関係で参加者は32名に留まったが、その約3分の2が圏域外からの観光客であり、広域周遊の促進における有効性を確認した。
- 山本館長監修による、天塩日誌をモチーフとした全10種のオリジナルバッジを制作し、圏域内4箇所と三重県松阪市に設置。武四郎の故郷である松阪市への設置により、遠方のファンへ向けた継続的な地域PRを実現した。



遺産の名称：
「松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡」
(北海道各地)



松浦武四郎(1818-1888)は、アイヌの人たちの助言と協力を得ながら6度にわたって蝦夷地を探索した。膨大な報告書を幕府に提出したほか、明治政府に必要とされ開拓判官に就いた。武四郎の業績は、北海道の沿岸・内陸を問わず踏査し膨大な記録を作成したこと、蝦夷地に関する多くの書物を出版したこと、北海道の名づけ親としてまた、国・郡の範囲を定めその名称を選定したこと等が上げられる。北海道各地にある身近な足跡に触れることから、その業績を知らしめ親しまれ将来に伝える手掛かりとなることを期待したい。

2. パシフィック・ミュージック・フェスティバル修了生コンサートin利尻島

広域先導モデル枠

- 実施主体：PMF修了生コンサート実行委員会
- 実施団体URL：<https://rishiriecomuseum.wixsite.com/rishiriisland>
(事務局:利尻しまじゅうエコミュージアムHP)
- 助成額：1,000,000円

一事業内容一

同じ北海道遺産であるPMFを利尻島に招聘し、島内の小中高生を対象とした金管五重奏コンサートを開催。また、吹奏楽に取り組む中高生へPMF修了生が直接指導を行う演奏交流プログラムを実施した。世界レベルの音楽体験を通じて地域の子供たちの育成に貢献するとともに、異なる北海道遺産同士の連携による多文化交流と新たな価値創出を実現した。

広報活動では、チラシやしおり等に北海道遺産のロゴと助成元を明記。当日配布の資料には北海道遺産マップや「ほっかいどう遺産WAON」のリーフレット等を同封し、遺産保護活動の意義を広く周知した。

● PMF修了生コンサートin利尻島

開催日時：2025年9月11日(木)
14:00～15:00

開催場所：利尻町交流促進施設どんとホール

対 象：島内の小中高生。一般の島民



遺産の名称：

「パシフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF)」 (札幌市)



パシフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF) は、20世紀を代表する音楽家、レナード・バーンスタインが1990年に創設した国際教育音楽祭。毎年夏の1カ月間、世界中から厳しいオーディションで選ばれた若手音楽家(アカデミー生)が札幌に集い、欧米トップオーケストラで活躍する首席奏者等の指導を受ける。その成果は、札幌を中心に道内各地の演奏会で披露され、北海道の夏の風物詩として定着。これまで参加したアカデミー生は200を越える世界各国・地域のオーケストラなどで活躍中。北海道から世界に発信する文化事業として成長している。

3. マインクラフト × 文化体験:デジタルでつなぐ歴史と未来

広域先導モデル枠

- 実施主体：一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン
- 実施団体URL：<https://wmdf.org/> (ワールズ・ミート・ジャパンHP)
- 助成額：700,000円

一事業内容ー

- マイクラワールドの制作と公開
公立はこだて未来大学の学生により、北海道遺産の構成要素である「元町公園」や「四稜郭」を再現したワールドを制作。ワールド内に北海道遺産ロゴを掲示し、助成事業であることを周知した。
- 体験ブースの設置
はこだて国際民俗芸術祭会期中に元町公園で開催された「わくわくフェスティバル」にて、Steam Deckを用いたMinecraft体験ブースを設置し、来場者がデジタル上で自由に探索できる環境を提供した。地域の遺産を次代へ引き継ぐ活動を推進した。来場した小学生らを対象としたアンケートでは、「建物がすごい」「本物も行ってみたい」といった回答があり、Minecraftの高いエンゲージメントが、楽しみながら文化的関心を喚起するきっかけとなり得ることが確認された。



遺産の名称：
「函館西部地区の街並み」
(函館市)



函館は1859(安政6)年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく(函館ドック)のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並ぶ。

4. 北海道遺産「道南ブロック会議」事業

広域先導モデル枠

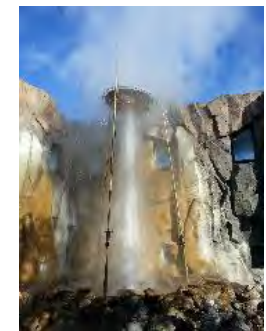
- 実施主体：道南ブロック会議運営事務局
- 実施団体URL：<https://www.town.shikabe.lg.jp/index.html> (鹿部町HP)
- 助成額：639,200円

一事業内容一

- 先進地視察と関連セミナーの実施
しかべ間歇泉並びに地熱エネルギーを最大限活用し、関係人口の拡大につなげるため、温泉活用の先進地である大分県別府市を視察し、住民ガイドによる「まちあるき」や観光・就労支援の連携事例を調査した。得られた知見はブロック会議で報告したほか、別府の観光ガイドを招いたセミナーを通じて広く共有。この活動を通じ、別府市との新たな連携体制を確立した。
- 道南ブロック会議の開催
2026年2月に、鹿部町にて道南地域の北海道遺産担い手が集い、「北海道遺産を活かした体験型プログラムの造成」をテーマとした道南ブロック会議を開催した。担い手をはじめ、学生や行政関係者を含む36名が参加し、間歇泉を活かしたワークショップでは体験型プログラムの造成手法を共有することで明確化された課題は、今後の各地域の取り組みにおける材料となった。全体を通して地域間連携の素地を作るとともに、次年度以降の活動に向けた知見を共有することができた。また、縄文文化交流センターの視察等を通じ、道南の歴史を再構築するストーリー構築を考える機会となった。



遺産の名称：
「しかべ間歇泉」(鹿部町)



「しかべ間歇泉」は、大正13(1924)年、温泉の掘削中に偶然発見された。この資源を活用した地域の温泉旅館は、海の恵みを楽しみつつ湯治できる場として栄え、今日の“海と温泉のまち”を築いた。町内30か所以上の泉源のなかでも、103度の高温の温泉が10分から15分間隔で約500ℓ、高さ約15mまで噴き上がる特徴があり、全国に複数ある間歇泉のなかでも、発見されてからこれまで、衰退することなく一定の噴出間隔と温泉量を噴き上げている。代々、地域住民の手により大切に守り継いできた“地域の宝”は、鹿部の大地を潤し続ける。

5.小学校教諭との協働による縄文遺産群を対象とした教育旅行の実践と普及拡大

縄文遺産事業支援枠

- 実施主体：認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム
- 実施団体URL：<https://hokkaidogaku.org/>（ほっかいどう学推進フォーラムHP）
- 助成額：350,000円

一事業内容一

- 縄文文化学習の普及・活用を目的とした関係者ヒアリング調査および教育旅行プランの検討・開発
旅行会社2社にヒアリングを実施。教育旅行は費用高騰や移動時間の制約から行程が限定され、縄文遺跡の組込みが難しい現状が共有された一方、体験学習の充実や低廉なプログラム、オンライン教材の活用、具体的なモデルコース提示の有効性も示された。ヒアリング結果を踏まえ、小学校向けに地域別の教育旅行プランを作成。現地視察会を実施し、移動時間や行程の妥当性、学習効果、プログラムの魅力を検証した。関係者や旅行会社の助言を反映し、実現可能性の高い内容へと精査した。
- 縄文文化学習の普及・活用を目的としたセミナーの開催
オンラインセミナーを開催し、教員と旅行会社等のパネリストが意見交換を実施。教員を中心に、縄文文化学習の教育的意義や現代的示唆が共有された一方、旅行会社側からは予算や行程、需要との乖離といった課題も提示された。今後は関係者の連携強化と実践的な展開の必要性が確認された。
- 縄文文化学習普及・活用検討会議の開催
検討会議を2回開催し、ヒアリング結果や現地視察を踏まえ、教材活用と教育旅行への展開を協議した。縄文遺跡の立ち寄りにくさや情報不足が課題として共有され、事前学習の充実、ポータルサイトの整備、関係者連携の強化など今後の方向性を整理した。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化
遺跡群」
（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

6.「世界遺産登録5周年へ・縄文雪まつり2026」の開催

縄文遺産事業支援枠

- 実施主体：北の縄文道民会議
- 実施団体URL：<https://www.jomon-do.org/>（北の縄文道民会議HP）
- 助成額：350,000円

一事業内容一

世界遺産登録5周年のキックオフとして、「縄文まつり2026」をさっぽろ雪まつり期間中に開催した。会場では縄文関連団体や学芸員らが参加し、国内外から訪れた来場者に北海道の縄文遺跡群を広く紹介するとともに、関係者間の交流や新たな連携の創出につなげた。縄文をテーマにしたさっぽろ雪まつりの大雪像と連動したPRにより、相乗効果を高めた。イベントでは、貴重な土偶の展示、20団体による連続トーク、28団体による物販・ワークショップ等で構成され、特にリレートークは満席が続くなど高い関心を集めた。トークは後日配信も行い、継続的な情報発信を図った。2日間で約1万2千人が来場し、広報も多方面で展開された。縄文文化の普及啓発と関係人口の拡大に寄与する成果が得られた。会場には関連する北海道遺産パネルの展示や、助成事業の周知を行った。

● 縄文雪まつり2025～縄文LOVE大集合！

日 時：2月8日(日)11:00-19:00

2月9日(月)10:00-17:00

場 所：チ・カ・ホ北3条交差点広場

内 容：展示

（中空土偶、札幌市N30遺跡土偶、動物形土製品）

ぶつつづけ！縄文リレートーク
（20団体）

わくわくマルシェ・ブース展開
（28団体）

来場者：1万2226人（2日間）



遺産の名称：

「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」

（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

7. 縄文エコミューゼの形成に向けた基盤づくり事業

縄文遺産事業支援枠

- 実施主体：一般財団法人道南歴史文化振興財団
- 実施団体URL：www.hjcc.jp/ (函館市縄文文化交流センターHP)
- 助成額：350,000円

一事業内容一

本事業において、縄文のテーマである「自然と人との関係性を見つめ直す場」を創出するための体験コンテンツを地域住民と勉強会や実地調査を進めた。調査結果は委託事業によりコンテンツ票としてまとめた。コンテンツは30あり、縄文体験系：10／クラフト系：4／自然体験系：8／食体験系：7／町歩き系：1に分けられた。

本事業を通して、縄文エコミューゼに向けた意識の共有化が図られた。ただし、観光コンテンツとしてのブラッシュアップは今後の課題である。

「2026縄文雪まつり」において事業の中間報告を実施し、縄文エコミューゼの取組や北海道遺産の助成事業について周知した。講演やトークを通じて、縄文世界遺産の意義や具体的な活動内容を発信し、来場者への理解促進を図った。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」
(函館市、伊達市など)



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期(7000年前)～中期(6000～4000年前)の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

8. 海からの視線で体験する世界文化遺産縄文遺跡の映像製作

縄文遺産事業支援枠

- 実施主体：伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム
- 助成額：350,000円

一事業内容一

- 縄文遺跡群ドローン映像の制作・活用
内浦湾沿岸を含む13の縄文文化遺跡を対象に、海側視点のドローン映像を制作。各地域のミュージアムや観光施設、教育機関での活用に加え、ツアー時の車内学習などへの展開を想定し、北海道遺産の普及啓発と理解促進を図った。
- 『内浦湾の縄文遺跡群の観光による広域的な地域振興活用』に関する研修会
ドローン映像の活用を目的に研修会を開催し、空撮による新たな遺跡の魅力や価値を共有した。学芸員等が参加し、広域的な地域振興や観光活用に向けた理解促進と連携強化を図った。

日 時：2026年2月5日（木）14:00～15:30

（オンライン研修会を併用）

会 場：室蘭開発建設部1階大会議室

参加者：14名（会場6名、オンライン8名）

（各学芸員及び担当者）



遺産の名称：

「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」

（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

9. 『茅空』発見50年記念！ 縄文魅力発信プロジェクト

縄文遺産事業支援枠

- 実施主体：縄文DOHNAN プロジェクト
- 実施団体URL：<https://jomon-dohnan.com/>（縄文DOHNANプロジェクトHP）
- 助成額：300,000円

一事業内容一

茅空発見50年記念及び本事業の周知を図るため、3度に渡り記念事業を開催した。

- 茅空発見50年記念として3回の事業を実施。初回イベントは関係機関の協力のもと、約4時間で500名以上が来場した。黒曜石レプリカづくりなど全10種の体験型ワークショップを展開し、子どもから大人まで幅広い層が参加し、縄文文化に触れる機会を創出した。
- 「はこだて縄文まつり」にて縄文コンテストを実施。幼児から大人までが参加し、来場者も投票に加わる参加型とすることで、会場の一体感を高めた。楽しみながら縄文文化に関心を持つきっかけづくりとなり、普及啓発に寄与した。
- どうなん縄文かるたの活用プログラムを作成し、学校や学童等100団体に400セットを寄贈した。授業等での活用により、楽しみながら縄文文化を学ぶ子供たちの姿が見られた。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」
（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91か所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

10. 北海道遺産「サケの文化」次世代伝承プロジェクト

一般枠

- 実施主体：一般社団法人石狩シェアハピシティ計画
- 実施団体URL：<https://www.ishikarishc.com/>
(一般社団法人石狩シェアハピシティ計画HP)
- 助成額：500,000円

一事業内容一

開発したアレンジ石狩鍋「石狩シャケナベイバー」を活用し、特に都市部や地域、さらには海外の若年層をターゲットにした各種プロモーションを展開することで「サケの文化」の魅力発信を行った。

● 主なプロモーション事業

- 2025年9月 アレンジちゃんちゃん焼きレシピ完成・公開／いしかりなベスタディツアー催行／JAPAN祭り（ロンドン）「サケの文化」プロモーション／「石狩鍋クッキング教室inロンドン」開催
- 2025年10月 藤女子大学での出前講座／「アレンジ石狩鍋クッキング教室」開催／「石狩鍋クッキング教室in能登」及び「炊き出し」開催／共立女子短大での出前講座
- 2025年11月 「石狩鍋クッキング教室in菊池」開催／「だご汁クッキング教室」開催
- 2025年12月 「石狩鍋クッキング教室」開催
- 2026年1月 「なべトークDE鍋パ」開催／「そずり鍋クッキング教室」開催



遺産の名称：
「サケの文化」
(北海道各地)



サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、2009(平成21)年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。

11. 炭鉄港マイクラ事業

一般枠

- 実施主体：炭鉄港推進協議会
- 実施団体URL：<https://3city.net/>（炭鉄港推進協議会HP）
- 助成額：453,934円

一事業内容一

ゲーム「マイクラフト」を活用し、旧産炭地の建物や街並みをデジタル空間で再現する取組を実施した。北海道教育大芸術・スポーツ文化研究所の学生と連携し、構築。成果物は炭鉄港ポータルサイトで公開・配布した。これにより、海外を含む遠方居住者に向けて空知地域の炭鉱関連の世界を体感できる環境の整備と、若年層を含む地域住民のシビックプライドの醸成を図った。

● 公開制作の開催

北海道教育大学岩見沢校にて公開制作を2回実施し、延べ130名が見学した。学生がマイクラ上で炭鉱施設を構築する様子を公開し、来場者が制作過程を直接見学できる機会を提供した。会場ではパネル展示も実施し、北海道遺産や地域の歴史についてPRした。

● ワークショップの開催

赤平市にてワークショップを開催し、小学生から大人まで16名が参加した。現地ガイドによる歴史解説と施設見学を行った後、マイクラ上で旧住友赤平炭鉱坑口浴場や周辺施設の再現作業を実施した。体験を通じて地域資源への理解を深めるとともに、参加者の主体的な学びを促進した。



遺産の名称：

「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

12. 北海道遺産協議会登録の遺産を訪ねるツアー 《なかなか訪れることの少ない地域の貴重な遺産に出会うツアー》

一般枠

- 実施主体：北海道中央バス株式会社
- 実施団体URL：<https://www.chuo-bus.co.jp/>（北海道中央バス株式会社HP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

各ツアーでは、地域関係者や自治体首長等の案内を通じて、北海道遺産の歴史・文化・自然への理解促進を図った。参加者からは、利尻島郷土資料館で鯉漁場の歴史や当時の暮らしに触れ、人々の支え合いの精神に感銘を受けたとの声があった。また、下川町や黒松内町では、森林と人との関わりについて学ぶことで、自然や森林遺産の重要性を再認識し、改めて地域資源として捉える契機となったとの感想が寄せられた。

- 催行ツアー 計6本実施、延べ170名参加
 - ・最北の離島礼文・利尻の自然と稚内の北海道遺産を巡る
(実施月 8月、参加者 24名)
 - ・日本遺産・北海道遺産小樽の歴史を再発見する旅
(実施月 10月・11月、参加者 19名)
 - ・町長がバスガイド～下川編～
(実施月 10月、参加者 23名)
 - ・レンガ色に染まる江別歴史探訪
(実施月 10月22日、参加者 35名)
 - ・町長がバスガイド～黒松内編～
(実施月 10月28日、参加者 36名)
 - ・日本遺産・北海道遺産小樽の歴史を再発見する旅
(実施月 11月1日、参加者 33名)



遺産の名称：
「江別のれんが」
(江別市)



開拓使は内陸開発建築資材にれんがを奨励し、道内8地区17の工場で造られたれんがによって、北海道庁赤れんが庁舎をはじめ多くの名建築が生まれた。大正以降、全道一の陶土地帯である江別の野幌周辺へとれんが製造の中心が移り、現在も3つの工場が稼働している。市内には小学校やサイロ、民家など400棟以上のれんが建築物が美しい姿で現存している。

13. ほっかいどう遺産「空知の炭鉱関連施設と生活文化」の 魅力発信・認知度向上事業

一般枠

- 実施主体：一般社団法人ステイびばい
- 実施団体URL：<https://staybibai.jp/>（ステイびばいHP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

炭鉄港 3 DAYS Weekenderの開催にあたり、空知の炭鉱関連施設と生活文化の普及啓発を目的に各種事業を実施した。

- 「炭鉄港 3 DAYS Weekender」にて、市内の炭鉱関連施設（アルテピアッツァ美唄、郷土史料館、東明駅舎）を対象としたスタンプラリーを実施し、3日間で延べ80名が参加した。参加者のうち63名が市内飲食店を利用し、地域資源の周知と地域経済との連動を図った。
- ガイド付きツアーでは11名が参加し、炭鉱労働の歴史や生活文化、我路神社跡に関わる信仰の歴史について解説を行うとともに、日本遺産 炭鉄港との関連性についても紹介した。
- 上記3施設にてライトアップおよび夜間開館を実施し、地域資源の新たな魅力発信を行った。東明駅舎ではミニ講座を開催し、27名の参加者に対して炭鉱関連施設の歴史的価値を解説した。
- 市内飲食店等へのポスター掲示に加え、団体公式SNSや美唄市、関係団体のSNSを活用した情報の事前周知・当日発信を実施した。また、北海道フェアin代々木でのPRや他地域の先進事例調査を行い、次年度以降の参考とした。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と
生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

14. 復活！下川町産割箸を通じた北海道遺産「しもかわの循環型森林文化」普及啓発事業

一般枠

- 実施主体：下川町
- 実施団体URL：<https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp> (下川町HP)
- 助成額：500,000円

一事業内容一

しもかわの循環型森林文化を次世代に継承していくための伝達ツールとして、一度廃業により姿を消した「下川産割箸」を活用したノベルティの試作を実施した。下川フォレストファミリー株式会社製造の「トドマツ利久割箸」を使用し、森づくりのストーリーブックやパッケージデザインの制作を通じて、循環型森林文化の取組を紹介する内容となっている。あわせて、ノベルティ配布を通じて木製品の利用促進やSDGsの推進を図った。



遺産の名称：
「しもかわの循環型森林文化」（下川町）



「経済・社会・環境」の調和による持続的な地域づくりを目指すため、基盤となる森林を活かすための理念である法正林思想^{*}により「循環型森林(もり)づくり」を行っている。現在、年間50haの伐採、植林、育林の適正な森林管理を60年間サイクルで継続している。この仕組みで、「雇用の場の確保」、「安定的な木材供給」、さらに「木質エネルギー創出」、「森林のメカニズムによる脱炭素」を可能とし、SDGsの目標である『誰一人取り残されない幸せな日本一の町』を創るために、「循環型森林文化創造」を実践するものである。(※毎年の成長量に見合う分の立木を一定量伐採、植林することで、持続的な森林経営が実現される森林のこと)

15. 仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進事業

一般枠

- 実施主体：仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会
- 助成額：500,000円

一事業内容一

● ちょっと陣屋PR事業

ポロトミナラ施設内に「陣屋PRブース」を設置し、トートバッグの配布等を通じて仙台藩白老元陣屋跡のPRを実施した。その結果、インバウンド観光客を中心に資料館への来館促進につながり、来館者数は昨年度比で約2倍となった。また、仙台藩白老元陣屋資料館友の会では、会員向けにポロシャツを制作・配布し、資料館イベント等で着用することで継続的な普及啓発を図った。



● しらおい周遊ガイド事業

白老町の歴史・文化・自然・食といった地域資源の魅力を発信する「おもてなしガイドセンター」において、国内外からの来訪者の町内周遊を促進するため、パンフレットの作成や統一ユニフォームの着用を通じて、PRを行った。



遺産の名称：
「仙台藩白老元陣屋」
(白老町)



江戸幕府は、嘉永6(1853)年の黒船来航により鎖国政策を断念して、下田と箱館を開港した。同時に、西欧諸国の日本進出を警戒して、東北地方の各藩に蝦夷地警備を命じた。白老元陣屋は、安政3(1858)年に仙台藩が構築し、慶応4(1868)年の戊辰戦争により撤退するまで12年間存続した。陣屋遺構には、土塁、掘割の重要遺構のほか、藩士たちが故郷から移植した赤松による歴史的景観などが比較的よく残されている。また、当時勧請した愛宕神社や塩釜神社、御霊を祀る藩士墓地では、地域住民が1世紀以上に渡り、例大祭や供養祭を挙行している。

16. 令和7年度ラムサール条約湿地登録20周年事業

一般枠

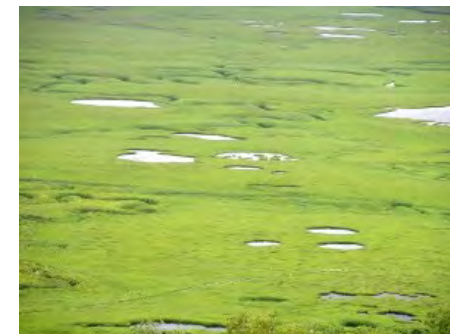
- 実施主体：雨竜町・雨竜町観光協会
- 実施団体URL：<https://www.town.uryu.hokkaido.jp/>（雨竜町HP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

- 7月に写真家の佐藤圭氏と登山YouTuberやまくっくやぎちゃんを招いた登山会・トークショーを開催。登山会は定員20名で実施し、雨竜沼湿原の立地や自然環境、魅力を実際に体感できる機会を提供した。また、トークショーでは雨竜沼湿原に登った印象や魅力を交えて発信し、町内外へ広く周知を図った。さらに、登山の様子を撮影した動画をYouTubeで配信し、雨竜沼湿原の魅力や現状について情報発信を行った。
- 協力店舗を昨年度の3店舗から6店舗へ拡大し実施した「雨竜沼フードフェア2025」では、町内の店舗と連携することで、20周年であることの周知と地域資源への関心喚起を図った。
- 上記事業にて、リーフレットやポスターの配布・掲示、新聞社への情報提供、SNS発信、町広報掲載等を通じたPRを実施した。加えて、雨竜沼湿原20年の歩みの再印刷・配布や、エスコンフィールド北海道地域PRブース、イオン北海道発寒店でのPRフェア出展を通じ、多くの来場者に雨竜沼湿原の魅力を発信した。



遺産の名称：
「雨竜沼湿原」
(雨竜町)



増毛山地の標高850mにあり、北海道の山地湿原の中ではもっとも大きな高層湿原。大小様々な地塘(ちとう)が700以上あり、独特の景観を見せる。湿原植物も豊富で、1964(昭和39)年に道指定天然記念物、1990(平成2)年に暑寒別・天売・焼尻国定公園特別保護地区に指定された。「雨竜沼湿原を愛する会」による事業は、湿原を未来に伝える大切さと難しさを教えてくれる。

17. 江差追分担い手事業

一般枠

- 実施主体：一般社団法人江差歴史文化再生機構
- 実施団体URL：<https://e-rekibun.sakura.ne.jp/home/> (江差歴史文化再生機構HP)
- 助成額：500,000円

一事業内容一

札幌駅前通地下歩行空間において、江差町の歴史文化を紹介するイベントを開催し、企画の一つとして北海道遺産「江差追分」をテーマとした展示およびステージ披露を実施した。会場には約3,000人が来場し、近年の民謡離れによる担い手減少の課題解決に向けて、認知向上と普及啓発を図った。

● 江差歴史文化再発見 in 札幌チカ木

開催日：令和7年10月30日

会場：札幌駅前通地下歩行空間（チカ木）

- ・ 正調江差追分節の唄と踊りの披露
曲目江差追分節（踊り付）
北海道民謡（ソーラン節、道南口説等）
- ・ 江差追分節の指導
- ・ 江差追分展示コーナーの設置
紹介パネルや江差町の歴史文化年表を展示し、江差追分誕生の背景を解説した。
また、パンフレットを作成・配布し、町内イベント等でも活用した。



遺産の名称：
「江差追分」（江差町）



江差追分は、「江差の5月は江戸にもない」とまで謳われたほど鯨漁で栄華を極めた時代に、本州と江差を往来していた北前船の船頭や船子（船員）たちによって伝わったとされる。唄の源流は、信州の馬子唄（木挽き唄）と言われ、江差の海の調べや花街文化、種々の民謡が混合し現在の形が完成した。江差町に根付いた江差追分は、地域の行事や日常生活の中で老若男女問わず唄い継がれた。「一度聞いて惚れ、二度聞いて酔い、三度聞いて涙する」と言われるほどの唄の魅力により、国内外に愛好者を持ち全国大会も継続して開催されるなど、日本を代表する民謡である。

18.鉄道記念物「しづか号」生誕140年、鉄道記念物「大勝号」生誕130年を祝う会

一般枠

- 実施主体：NPO法人北海道鉄道文化保存会
- 実施団体URL：<http://www.tetsudo.in/>（NPO法人北海道鉄道文化保存会HP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

北海道遺産「小樽の鉄道」を構成する蒸気機関車「しづか号」および「大勝号」について、次世代への継承と認知向上を目的に、製造から140年・130年の節目を記念したセレモニーを開催した。当日は、小樽市長やJR小樽駅長を来賓として招き、博物館解説ボランティアによる両車両の解説や、小樽管弦楽団によるミニコンサートを実施し、参加者が歴史ある車両に親しむ機会を創出した。あわせて、博物館エントランスホールに「大勝号」のオブジェを設置し、解説ボードやスタンプラリーを通じて、車両の歴史をわかりやすく紹介した。



遺産の名称：
「小樽の鉄道遺産」
(小樽市)



明治13年11月28日、小樽手宮一札幌間に、アメリカ人技師クロフォードの指導のもと、待望の鉄道が開通。2年後、幌内炭鉱に到達し、石炭の搬出が開始された。港一鉄道結節のまち小樽は急速に発展し、北海道の開発を先導するまちに成長。石炭から石油に、港も日本海から太平洋に移ったが、北海道の開発を支えた鉄道遺産は、国の重要文化財、鉄道記念物にも指定され、野外展示の約50両の車両を含め、鉄道技術の発展を示す貴重な近代遺産として保存されている。

19. 開陽丸記念館休館中の出張展示モデル製作

一般枠

- 実施主体：江差町
- 実施団体URL：<https://www.hokkaido-esashi.jp/>（江差町HP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

令和7年11月からの開陽丸記念館リニューアル休館期間中においても、開陽丸関連資料の展示を継続できるよう、展示ケースの改修および体験設備の整備を実施した。改修した展示物は、10月に札幌市で開催された「江差歴史文化再発見」や、2月に江差町で開催した開陽丸関連講座において活用し、講座内容と連動した展示を行った。出張展示以外の時期は、旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）にて展示公開している。来場者からは、「わかりやすい」「楽しく学べる」といった意見が寄せられ、歴史文化への理解促進につながった。なお、改修した展示ケースや体験設備には、北海道遺産ロゴマーク等を掲載したステッカーを添付し、周知を図った。



遺産の名称：

「五稜郭と箱館戦争の遺構」（函館市など）



箱館戦争は1868（明治元）年秋の旧幕府脱走軍の侵攻に始まり、翌年春の新政府軍の反撃により、五稜郭開城で終わった。戦いは道南一帯に及び遺跡や遺構が随所に見られる。榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が上陸した鷲ノ木、蝦夷島臨時政権の根城となった五稜郭や急ぎ造成された四稜郭、猛攻を受けた福山城、開陽丸が沈没した鷗島沖、新政府軍が上陸した乙部海岸、激闘の二股口、土方歳三が戦死した一本木関門など、戦いのすさまじさを偲ばせる。

20. 北海道遺産「下の句かるた」次世代育成事業

一般枠

- 実施主体：全日本下の句歌留多協会
- 実施団体URL：<https://shimonokukaruta.com/>（全日本下の句歌留多協会HP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

- 下の句かるたの継承と普及を目的として、全道5カ所の競技大会を開催し、愛好家の参画と競技人口の拡大を図った。かるた大会の主催団体に対する会場費等の運営経費支援を行ったほか、第76回全日本下の句歌留多選手権大会では新聞折込による地域向けPRを実施した。さらに、入賞チームに対してほっかいどう遺産WAONカードを活用した賞金授与を行い、北海道遺産の普及啓発を図った。

2025年11月 苫小牧大会 36チーム（150人）

2026年3月 旭川大会 78チーム（300人）／岩見沢大会 50チーム（200人）

2026年4月 第76回全日本下の句歌留多選手権大会 60チーム（250人）／稚内大会 53チーム（200人）

- 北海道子ども会育成連合会と連携し、次世代育成を目的とした子どもかるた大会を開催した。全道大会には小学・中学各16チームが出場し、地区予選を含め60チーム・約300人を超える児童・生徒が参加した。

2026年2月 北海道子どもかるた大会 32チーム（300人）



遺産の名称：
「下の句かるた」
（北海道各地）



下の句かるたは、北海道に入植した人々により道内に普及した。「木の札」であることと、小倉百人一首の下の句を読み上げる独特の競技は、北海道特有の遊びの文化である。かつては、主に家庭内での楽しみだったが、近年は冬場の室内競技として愛好者が増加している。かるた競技は、厳格な雰囲気の中での対戦や緊張感の下で、礼節やチームワーク等を体験でき、世代を超えた交流や人間関係を学ぶきっかけにもなっている。大人、子ども、性別を問うことなく競技を通して楽しみながら、日本古来の文化に親しむことに加え、地域コミュニティ発展の場として意義がある。

21. オリジナルグッズを活用したしかべ間歇泉普及啓発事業

一般枠

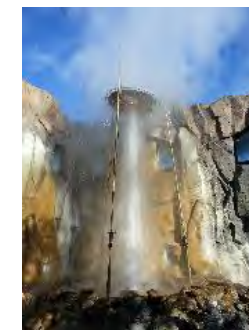
- 実施主体：鹿部町
- 実施団体URL：<https://www.town.shikabe.lg.jp/index.html> (鹿部町HP)
- 助成額：500,000円

一事業内容一

しかべ間歇泉をメインデザインとし、北海道遺産ロゴも取り入れたオリジナル保冷温バッグおよび紙袋を制作し、令和7年12月のJR大宮駅での物販、令和8年1月のJR東京駅およびJAL本社での物販をはじめとした、道内外の各種イベントにおいて配布した。配布の際は町や北海道遺産のパンフレットも同封し、積極的なPRを行った。保冷温バッグや紙袋を活用することで、視覚的なPR効果に加え、繰り返し使用されることによる継続的な情報発信や、第三者への波及的なPR効果が期待される取組となった。



遺産の名称：
「しかべ間歇泉」(鹿部町)



「しかべ間歇泉」は、大正13(1924)年、温泉の掘削中に偶然発見された。この資源を活用した地域の温泉旅館は、海の恵みを楽しみつつ湯治できる場として栄え、今日の“海と温泉のまち”を築いた。町内30か所以上の泉源のなかでも、103度の高温の温泉が10分から15分間隔で約500ℓ、高さ約15mまで噴き上がる特徴があり、全国に複数ある間歇泉のなかでも、発見されてからこれまで、衰退することなく一定の噴出間隔と温泉量を噴き上げている。代々、地域住民の手により大切に守り継いできた“地域の宝”は、鹿部の大地を潤し続ける。

22. ①第11回天塩川de水切り北海道大会 ②天塩川春発信inなかがわ

一般枠

- 実施主体：中川町観光協会
- 実施団体URL：<https://nakagawatourism.com/>（中川町観光協会HP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

①第11回天塩川de水切り北海道大会

道内に限らず道外（広島県・高知県・大阪府など）や、国外（中国）からの参加があった。地域内外の方が天塩川に集う機会を創出することで「天塩川と地域の共生」を再認識し、また「北海道遺産 天塩川」をPRするとともに中川町の地域の活性化に貢献した。

- 第11回天塩川de水切り北海道大会
 - 大会日時：令和7年7月6日(日) 10:00～15:00
 - 開催場所：天塩川 佐久河川敷カヌー発着場
 - 参加者数：126名

②天塩川春発信inなかがわ

天塩川の解氷日時を予想する参加型イベントを実施し、はがき及びインターネットにより応募を受け付けた。天塩川の氷上に標識、右岸に時計を設置し、解氷により標識が流れた時点で時計が停止する仕組みとし、停止した日時を正解として、応募者の中から正解との差に応じて賞金及び特産品を呈することで、天塩川の認知拡大を図った。

【実施結果】応募総数6,271件、応募人数5,167名。



遺産の名称：
「天塩川」
(流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

23. 石狩川下覧櫓川下り・水遊び

一般枠

- 実施主体：石狩川下覧櫓
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/profile.php?id=100064868040973>
(石狩川下覧櫓Facebookページ)
- 助成額：500,000円

一事業内容一

- 第30回石狩川下覧櫓川下りを実施し、近隣市町村に加え札幌市や旭川市からも参加があり、計50名が参加した。滝川市から砂川遊水地までの約14kmを約4時間かけて川下りし、石狩川の魅力や自然環境を体感する機会を提供した。近年はSNS等を通じた参加者も増加しており、川への関心や認知向上につながっている。
- 今年度は2艇の転覆が発生したものの、新たに準備した船外機付きボートによって、迅速な救助対応や事前のコース確認を行ったことで、安全に事業を実施することができた。



遺産の名称：
「石狩川」
(流域市町村)



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

24. 足寄ふるさとラワンぶきまつり2025

一般枠

- 実施主体：足寄ふるさとラワンぶきまつり実行委員会
- 実施団体URL：<https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/>（足寄町HP）
- 助成額：500,000円

一事業内容一

- 足寄町の特産品であり北海道遺産に選定されている「螺湾ブキ」の普及啓発を目的として、「足寄ふるさと花まつり」をリニューアルしたイベントを開催した。本年度で3回目の開催となり、年々参加者数が増加するなど、町内外へ足寄町をPRする機会となっている。
- イベントでは、旬を迎えた生ラワンぶきの販売を実施し、本年度は去年の倍量を用意したものの約2時間で完売した。また、町内婦人部によるラワンぶきを活用した商品の提供も行い、ラワンぶきの魅力や食文化を広く発信した。
- 継続的な普及啓発を図るため、北海道遺産ロゴ等を掲載したイベント用テントを制作した。今後の当該イベントのほか、町内イベントや自治会行事等での活用を予定している。



遺産の名称：
「螺湾ブキ」（足寄町）



足寄町の螺湾川に沿って自生する螺湾ブキは高さ2～3mに達する巨大なフキ。かつては高さ4mに及び、その下を馬に乗って通ることができたというが、なぜ大きくなるのかはいまだに謎が多い。また、自生ブキの他にも、農業者が農産物として栽培ブキの生産を行っている。その味は繊細で、ミネラルが豊富で繊維質にも富む。地元では産学官が一体となった商品開発も進めており、足寄町オリジナルのブランドとして知名度を高めている。

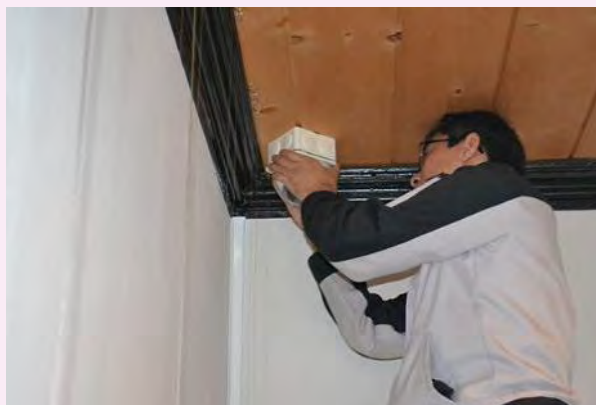
25. 北海道集治監釧路分監魅力向上事業

一般枠

- 実施主体：標茶町
- 実施団体URL：<https://www.sip.or.jp/~shibecha-museum/>（標茶町博物館HP）
- 助成額：490,600円

一事業内容一

「北海道の集治監」に関する歴史資料や竜吐水を新たに展示・公開し、北海道の囚人労働や集治監が設置された地域の歴史的背景を学ぶことができる展示内容へとリニューアルした。セキュリティ対策としてカメラを設置し、安全に展示できる環境を整備した。竜吐水公開を目的とした来館者の増加につながり、博物館への関心喚起と理解促進が図られた。



遺産の名称：

「北海道の集治監」（月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市）



北海道は北方にある地理性から、集治監（国立刑務所）の設置が集中した。建設は樺戸（現月形町、1881年）、空知（三笠市、1882年）、釧路（標茶町、1885年）、網走（1891年）、十勝（帯広市、1893年）の順であった。目的は初期の西南戦争政治犯収容、後期に重大犯罪人隔離で、北辺防衛と北海道開拓用の北見と上川道路・鉄道建設（樺戸、空知、網走）、幌内炭鉱開発（空知）、硫黄鉱山開発（釧路）、農地開発（帯広）等で、北海道の初期インフラ整備と地方文化形成をになった。

26. 増毛山道の歴史や遺産の広報・ツアー・維持管理事業

一般枠

- 実施主体：特定非営利事業法人増毛山道の会
- 実施団体URL：<http://www.kosugi-sp.jp/sando/top.html>
(NPO法人増毛山道の会HP)
- 助成額：430,000円

一事業内容一

増毛山道は、特に道有林内で林道と複雑に交差しており、道迷いによる遭難の恐れがあることから、案内看板の整備を実施した。従来の木製看板は野生動物や冰雪被害により耐久性への課題があったため、今回は鉄製枠とアルミ複合板を使用し、錆に強く過酷な環境下でも10年以上の耐久性を持つ仕様とした。設置にあたっては、雪崩対策として地中への根掘りや小型重機を使用し、総延長約12kmの範囲に9基を整備した。これにより、トレkkerの安全確保と遭難防止に寄与する環境整備を図った。また、作成した看板には北海道遺産ロゴマークを掲出し、利用者への普及啓発を行った。



遺産の名称：
「増毛山道と濃昼山道」
(増毛町、石狩市)



開削から160年余の歳月を経て、3mを越すクマイザサの中に埋没し、記憶の彼方からも消え去ろうとしていた「増毛山道と濃昼山道」。近世北海道の開拓遺産として、大きな意義があると確信した地域住民を中心に、時には山中泊をしながら復元行動を開始してから約10年、往時の姿を残す良好な状態で遂に2016年に全線復元した。北海道に残された山道の中でも、北海道の名付け親である松浦武四郎は「蝦夷地第一の出来栄え」と評した希少な山道であり、近代化に果たした歴史的役割や機能を体感できる遺構。

27. 史跡旧島松駅通所リニューアルオープンに係る北海道米のルーツ「赤毛米」の魅力発信事業

一般枠

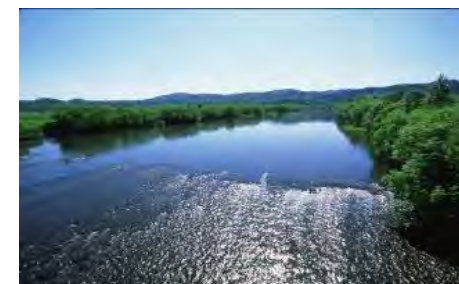
- 実施主体：北広島市
- 実施団体URL：<https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/detail/00132036.html>
(北広島市HP)
- 助成額：314,200円

一事業内容一

北海道米のルーツ「赤毛米」の見本田を有する史跡旧島松駅通所は、耐震補強・保存修理工事に伴い令和6年から休館しており、令和8年4月28日にリニューアルオープンを予定している。本事業では、リニューアルオープンを記念した期間限定の特別観覧券を制作した。観覧券の裏面には「寒地稲作発祥の地と『赤毛』」として、赤毛米が北海道遺産に選定されていることを紹介する内容を掲載し、周知を図る。あわせて、展示リニューアルの一環として、「現在も引き継がれる赤毛の栽培」をテーマとした展示解説を、実物の赤毛とともに設置した。さらに、リニューアルオープン後に実施予定の施設見学会においても、赤毛や北海道遺産に関する解説を行うことを予定している。



遺産の名称：
北海道米のルーツ「赤毛米」（北広島市）



「赤毛」は、今や全国的ブランドとなった北海道米の先祖である。寒さに強いこの種もみを使用して、明治6(1873)年に、現在の北広島市島松の地で、中山久蔵が寒地稲作を成功させた。道南以北での稲作は不可能とされた中、中山は高い志と努力を以って稲作を実践し、入植者たちに収穫した稲を無償で分かち、寒地生育の技術指導などの長年の支援をした。この努力により、北海道中に稲作が広まるきっかけをつくった。「赤毛」とこのストーリーは、見本田の復活や学校授業、商品開発など、地域の人々の熱い想いにより、現在も地域の誇りとして保存され、引き継がれている。

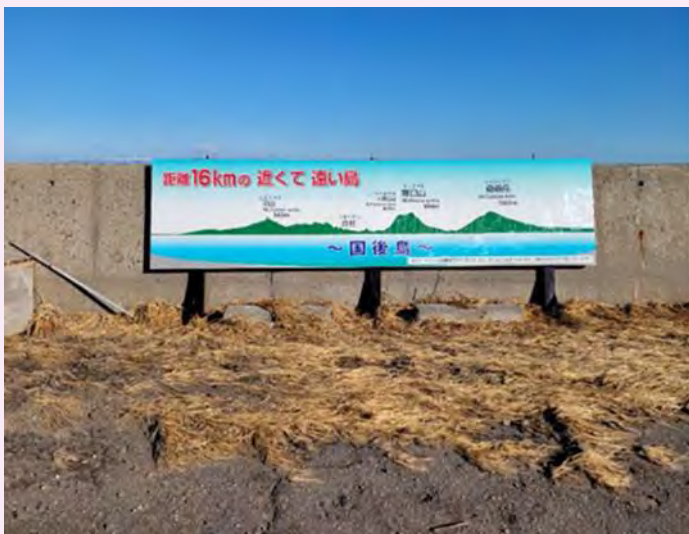
28. 野付半島から見る国後島展望デッキ整備

一般枠

- 実施主体：野付半島自然環境保全協会
- 実施団体URL：<https://notsuke.jp/> (野付半島ネイチャーセンターHP)
- 助成額：300,000円

一事業内容一

野付半島ネイチャーセンター前の護岸に設置している北方領土啓発看板および木製デッキの更新を実施した。従来の看板は経年劣化により視認性が低下、デッキの腐食も進んでいたことから、看板とデッキ1基を新調し、野付半島や国後島を望む展望スペースとして安全かつ快適に利用できる環境を整えた。看板には新たに北海道遺産「野付半島と打瀬舟」の概要説明などを加えた。デッキは観光客や地域住民が景観を楽しみながら北方領土への関心を高める場となっており、施設環境の改善と北海道遺産の普及啓発を図った。



遺産の名称：
「野付半島と打瀬舟」
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

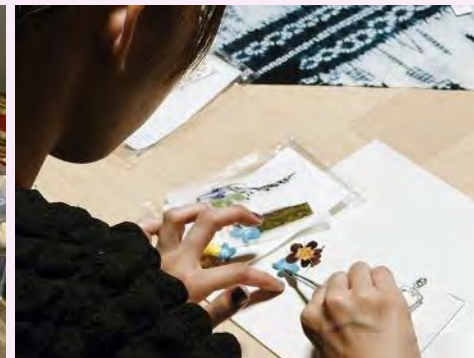
29. 大学生による「利尻島の漁業遺産群と生活文化」体験交流事業

一般枠

- 実施主体：利尻しまじゅうエコミュージアム
- 実施団体URL：<https://rishiriecomuseum.wixsite.com/rishiriisland/toppage>
(利尻しまじゅうエコミュージアムHP)
- 助成額：300,000円

一事業内容一

- 8月18日から22日にかけて、札幌学院大学の学生を対象に、利尻島における体験学習・フィールドワークを実施した。島内散策や郷土料理体験、釣り体験に加え、ガイド案内のもと北海道遺産「利尻島の漁業遺産群と生活文化」に関わる史跡や施設を巡り、ニシン漁をはじめとする漁業の歴史や、漁業と結びついた生活文化について学習した。
- あわせて、学生が食・移住・教育をテーマにアンケート調査を実施し、地域住民や関係者への聞き取りを通じて、漁業を基盤として形成された生活文化や価値観が、現在の地域社会へどのように継承されているかについて考察を深め、後日、成果を報告書に取りまとめた。
- 参加学生からは、郷土料理体験や地域住民との交流を通じて、自然だけでなく歴史や暮らしを含めた利尻島の魅力への理解が深まったとの感想が寄せられた。



遺産の名称：
「利尻島の漁業遺産群と生活文化」（利尻島）



日本最北の利尻島には、近世以降の漁業と移住の歴史を物語る漁業遺産群がある。近世には松前藩、近江商人による交易場所がおかれ、アイヌがそれを支えた。幕末以降は出稼漁民が松前や青森、秋田から渡り漁場を拓いた。その記憶は袋澗や番屋、石碑や獅子舞などに残っている。島の産物であった鯺は、北前船で本州に運ばれた。利尻島を行き来する海の道は「ヒトは北へ、モノは南へ」という交流史をつくりあげた。

30. 登別地獄谷遊歩道修繕

一般枠

- 実施主体：登別市
- 実施団体URL：<https://www.city.noboribetsu.lg.jp/>（登別市HP）
- 助成額：297,000円

一事業内容一

北海道遺産「登別温泉地獄谷」の遊歩道において、丸太づくり階段の腐食や踏面の破損、階段の歪み等が発生し、安全な通行に支障をきたしていたことから、特に危険性の高い箇所の修繕を実施した。修繕により、利用者が安全に通行できる環境を整備するとともに、遊歩道景観の改善を図った。本事業は市公式ウェブサイトにおいて周知を行い、普及啓発に努めた。



遺産の名称：
「登別温泉地獄谷」
（登別市）



地獄谷は北海道を代表する温泉地・登別温泉最大の源泉です。直径450mの谷底には大地獄を中心に15の地獄があり、毎分3,000Lが湧き出している。登別温泉は「温泉のデパート」と形容され、多泉質が湧き出しており、これは世界的にも珍しい。地獄谷の周辺には表面温度が40～50度になる大湯沼、頂きから白煙が立ち上り、高山植物の名所としても知られる日和山、登別原始林などが広がる。

31. 雪合戦審判競技力向上講習・審判交流派遣事業

一般枠

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会
- 実施団体URL：<https://www.yukigassen.jp/>
(昭和新山国際雪合戦実行委員会HP)
- 助成額：200,000円

一事業内容一

コロナ禍以降に減少した雪合戦公式審判員の確保や、国際的なルール改定への対応を目的として、日本国内の各連盟役員を集めた検証会および意見交換会を実施した。会議では、今後の雪合戦競技の在り方をはじめ、競技人口の拡大、審判員育成、持続可能な組織運営等について協議を行い、競技運営体制の強化と組織の活性化を図った。

- 『米泥棒☆雪合戦 NUMATA』への審判員派遣（実施日：2025年8月 / 開催場所：沼田町）
- 『審判技能向上研修兼ルール検討会議』を開催（実施日：2025年10月 / 開催場所：札幌市）
- 『第37回昭和新山国際雪合戦』への審判員派遣（実施日：2026年2月 / 開催場所：壮瞥町）



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦大会」（壮瞥町）



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

32. 大友亀太郎・ウィリアム P. ブルックス・永山武四郎につながる物語 巡回写真展

一般枠

- 実施主体：札幌村郷土記念館保存会
- 実施団体URL：<https://hokkaido-digital-museum.jp/facility/sapporomura/>
(札幌村郷土記念館保存会HP)
- 助成額：120,000円

一事業内容一

- 大友亀太郎から始まる札幌村開村以後、札幌の農民たちに玉葱栽培を伝えたブルックス博士と永山武四郎の関係について、一連の歴史の物語を伝えることを目的に、札幌村郷土記念館と旧永山武四郎邸の共同企画として、「根深葉茂～ブルックスと永山武四郎～」と題した巡回写真展を開催した。始めに旧永山武四郎邸での展示を行い、4月7日以降は札幌村郷土記念館において常設で展示している。あわせて、ブルックスに関する広報リーフレットの増刷をつた。
- また、札幌村郷土記念館所蔵の札幌市指定有形文化財114点について、災害や事故等による消失・棄損リスク低減を目的に、写真撮影およびデータ化による保存を実施した。



遺産の名称：
「大友亀太郎の事績と
大友堀遺構」（札幌市）



北海道開拓の中心である札幌の開基は、幕末の大友亀太郎の札幌村建設と大友堀の開削に始まる。大友は慶応2(1866)年に本州土木技術の後継者として大友堀と札幌村建設を主導した。堀は4kmに及び、その一部は現創成川として残り、これは島義勇による札幌の東西の起点となった。大友は明治3(1870)年に札幌を去ったが、その事績は札幌市東区の札幌村郷土記念館内大友関連展示と文書資料で見られる。

33. 北海道遺産「モール温泉」PRパンフレット作成

一般枠

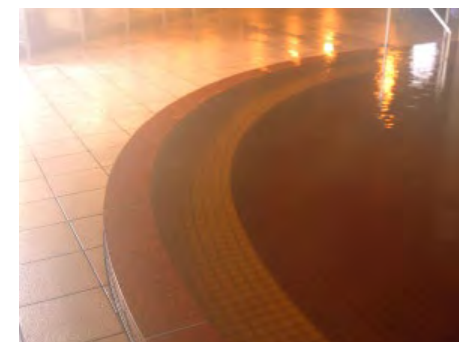
- 実施主体：一般社団法人音更町十勝川温泉観光協会
- 実施団体URL：<https://www.tokachigawa.net/>
(一般社団法人音更町十勝川温泉観光協会HP)
- 助成額：109,000円

一事業内容一

北海道遺産「モール温泉」の普及啓発を目的として、十勝川温泉の宿泊施設等を紹介するパンフレットを作成した。「白鳥まつり彩凜華」や、2月に札幌市で実施した十勝川温泉キャンペーン等において配布し、認知向上と誘客促進を図った。



遺産の名称：
「モール温泉」
(音更町など)



モール温泉は、泥炭を通して湧出するもので独特の黒っぽい湯が特徴。主成分は植物性腐食質で、鉱物成分より植物成分が多いのが他の温泉との違い。また、熱源は地熱に加えて、地下の植物の堆積物による発酵熱と考えられている。モール温泉は日本各地で湧出しているが、北海道では十勝や石狩平野、豊富町などで見られる。十勝地域では、モール温泉を活かした商品開発などにも力を入れている。